

## 第4期第14回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2019年12月20日（金）午前10時～12時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：古里貴士（副会長）、大野浩子、白崎好邦、鈴木忠道、陶山慎治、  
服部くに子、向井美子、米倉茂 以上8名

事務局：田中担当課長、大野管理係長、高木事業係長、三橋主任（記録）

〔欠席者〕 ※敬称略

太田まゆみ、辰巳厚子、堂前雅史、柳沼恵一 4名

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】 第4期町田市生涯学習センター運営協議会報告書(案)

【2】 レジюме 東京都公民館連絡協議会（都公連）の活動について

## 開 会

副会長：第14回生涯学習センター運営協議会を始める。今回と次回で報告書（案）の内容検討し、2月は、ほぼできた形で最終確認する。次第に沿って進める。

事務局：会長は本日欠席。センター長は教育委員会出席のため欠席。センター長報告は次回まとめて行う。生涯学習審議会も開催していないため報告は無い。

## 1 報告事項

### （1）東京都公民館連絡協議会の活動について

委 員：資料2に基づき話す。第9回委員部会が12月17日小金井市で行われた。報告事項はなく、協議事項の1点目は、第56回東京都公民館研究大会について内容の詰めの確認をした。今回は各市が事例発表を行い、それを参考に持ち帰り活動に生かしてほしいというのが一つの狙い。また、立ち上がったサークルがどうしたら長続きするのか、さらに発展するのかを勉強しようという大会になっている。町田市からは、2年前の学習からサークルを立ち上げた『ゆるっと ママ』が発表する。テーマは「お母さんから『ゆるっとママ』への挑戦」。特にいい話が聞けると思う。2点目は情報交換について、テーマの公民館施設使用料について、前回も報告したが、無料、有料等表にした。今回このテーマを取り上げた理由は、無料の市も有料化が話題にでているため、利用者の立場で何とか回避したいという思いがあり調査することにした。資料は1月にまとまる。

## 2 議 題

### （1）第4期町田市生涯学習センター運営協議会報告書(案)について

副会長：本日と次回とで事務局が作成した報告書案の内容を検討し、しっかり肉付けしていきたい。資料1の報告書案について、1から5で構成されているので、パーツに分けて議論したい。

委員：全体的な印象から始めてほしい。

副会長：それでは、全体的な印象など意見をいただき、その上で各パーツに移ります。

委員：前回「この報告書は協議会からセンター長に報告する」と話があった。この案は、内輪の人間が内輪の人間に報告している内容で何の意味もない印象を受けた。誰が誰に何を伝えたいか分からない。4期のまとめであれば手記を書けばよい。体裁を繕うのはやめた方がよい。事実ではない嘘を書いてはいけない。本来の報告書のあり方は、「観念先行型」や「現状追認型」はだめ。「問題（課題

解決型」でやるべき。「まちチャレ」が詳しく書かれているが、「まちチャレ」が良いというならば、次年度は市民ニーズを吸い上げるための核にすえてもっとPRすべき。PR手段をどうするか、「採用件数を倍にしよう」「もっと予算を増やす要求をしよう」など、もっと提言をするべき。そのような、議論があったのならばそのように書けばよい。「こういう意見があった」「こういう発言があった」「こういう提言があった」というのは事実である。そういう列挙する形式にすべき。理由は、「協議会の実態がテーマを絞って議論して、よりよい方策にまとめあげた」というのとは程遠いから。「NAVI」について、「NAVI」は市民意識調査でも2012年2017年共知らない人、読んでない人は8割。一方「広報まちだ」は、知らない・読んでない人は2割で対照的である。「広報まちだ」はほとんど認知されているが、「NAVI」はされていない。生涯学習センターは2012年から8年目だが、「NAVI」は2007年から13年も続いている。この報告書の中で、「市民ニーズは絶えず変化している」と言っているが、「NAVI」は旧態依然と続けている。生涯学習センターは思考停止の状態。「今までやってきたことに一切手を加えない」に陥っているのではないか。毎年800万円かけて1冊400円のものフリーペーパーのように扱われている。最近「地域住民同士が高齢者を支え合う仕組みが盛ん」というのがマスコミに取りざたされているが、その場合でも利用料は30分で250円だ。この「NAVI」は400円なので非常にもったいない。その一方で「ホームページにNAVIの電子版を用意したのでご覧ください」「スマホ版NAVIも準備します」「SNSも活用していきます」という話があった。メディアミックスを狙うのであれば、今の「NAVI」の発行を見直すべきではないか。事業の進め方そのものに整合性のない思い付きでやっているように映っている。「必要な人に必要な方法で必要な情報を提供するようにNAVIを見直すべき」それが私の元々の提言の主旨である。それを矮小化して書かれているように思う。市民意識調査の正しい捉え方、2012年、2017年共に生涯学習センターは「知らない人」「利用していない人」を足すと8割になる。その理由は複数回答で「サービスが無い」「関心が無い」が8割から9割。生涯学習センターの事業に対して、「関わっていない市民の声なき声をどう吸い上げていくか」これが喫緊の課題である。そのことを

今の生涯学習センターが事業方針の前面に掲げるぐらいの姿勢を顕すことがまず必要なのではないか。「生涯学習センターはそういう姿勢で取り組んでいます」と言っただけで初めに関心を引いてもらえる。「5おわりに」の皆さんの議論の中で、「周りが気づいてあげなければいけない」「声をあげられない、あるいは明確に自らのニーズを認識できていない段階にある市民に対して、気づきを与えるような活動」など、すべて上から目線である。「みんなは生涯学習してないから教えてあげるよ」という姿勢ではなく、今、関心持たれていない人が8割いて、それをどうやって高めていくか、「こうやっていきます」と言っただけで初めに関心を引いてもらえる。ここに書かれていることは、今までやってきたことを「こうです」「こうです」と言っただけで、それに対する提言が何もない。「どうしましょ」という議論をした記憶がない。皆さんも無いと思う。今になって生涯学習がこうであると報告書にまとめるのは、かなり違和感がある。全体的にはそんな印象を持った。

副会長：全体的な報告書事態の作り方、カテゴリに関わる意見だったと思う。各パーツを議論するにしてもその部分の意見交換をして合意を図っていききたい。

委員：賛成・反対意見が出ると思うが折衷案みたいな、「やりながら全体構成を見直しましょう」という意見もあると思う。今、「どちらにしましょ」と言っただけで皆さんそれぞれ印象が違うと思うので、半分ペンディングにする方法もあると思う。

委員：報告書の骨子は前回の会議で「こうしていこう」と決めたので、それを踏襲すれば良いと思う。そもそも、「報告書は公民館職員と委員のなれ合いではないか」というのは、なれ合い大いに結構。報告書を後から見て、そこから動くのでは遅い。書かれている内容がどういう趣旨でどういう方向を期待しているか一緒に作り上げる。極端な言い方では、報告書は後で、記録的なものであっても良い。要はここで話し合った内容を「いかに迅速にやるべきことをやっていくか」ということが、「市民の期待はどういうことか」「課題は何なのか」この場で共有して解決策を速やかに実行に移すということが主旨だと思う。

副会長：〇〇委員に質問ですが、「意見を並べるような形の報告書を作ってみては」という意見だと思うが、そのイメージは以前事務局が作成した論点整理したようなものに肉付けし、ふくらます形でしょうか。

委員：いえ、その資料自体あまり認識していないので、そこにこだわらずに。全体的に文末が気になる。「意見がありました」「結論にいたりました」など、どこまで本当のことが書かれているのか分からない。そこでは、議論した記憶がまったくない。意見を言って終わっているのでは、そのまま書いたらどうですか。〇〇委員が言われるのであれば、あと1回まとめて、どこかで集中的に議論して、施策をつくって、皆さんどうですかと言うべき。でも、あと1・2回で時間がないので、皆がやってきたことを報告すべき。〇〇委員が言うことは報告書ではなく、別の主旨だと思う。

委員：2月にはまとめられていないといけな。実質的にこれを大幅に変えるとなると。一つは報告書と言う形であれば、議事録を全部付けて「こういう議論しました

「次にこういう課題があります」というのも。この報告書を作るにあたって、正副会長の意見も取り入れられていると思うが。

副会長：原稿は事務局から事前に頂いていたが時間がなく意見を出していない。全体を読んでいて、〇〇委員が言われることもわかる。事務局で書いて、事務局に提案するというのはかなりしづらい。具体的な提案としては何が提案できるのかというメモ書きをしている。運営協議会として提案について議論してまとめるまでには至っていない。今までに即して書くとなると具体的提案は難しいと思う。この1・2回で急場しのぎに作っても実のある提案にはならない。そもそも、何に絞り込むのか議論しなければいけない。具体的提案は欲しいが、今までの進み方や時間的制約を考えると難しいという感想を持っている。そこで提案として、2年間かけて議論してきた、課題の洗い出しまでは進んでいるが、何かに絞って具体的提案までには至っていない。報告書は出すが、最終報告書ではなく、あくまで「中間まとめ」で、最終的には「もっとこういった部分を深めていく必要があります」という課題が結論のようなまとめ方のほうが終わりにならない。次期テーマは次期の問題なので、こういったテーマで話し合ってくださいという決定はできないが、「こういった課題が出てきたので、「中間まとめ」として次期の運営協議会に引き継ぎます。これを参考に次期のテーマを決めてください」と言うのも含めて「中間まとめ」と言う形で落とし込むこともできる。今までそのような形をとってきたことがあるのか分からないが、必ずしも前例踏襲しなければならないわけではないので案の一つとして使っていただければ。

委員：今までの意見を総括してということですね。

副会長：今まで出していただいた意見や報告書を読んだ意見・感想です。

<全員賛成>

副会長：事務局から意見を聞きたい。

事務局：生涯学習に対する市の姿勢について、〇〇委員の話を聞きながら職員として悶々としていた。教育委員会では社会教育の実践の場として公民館があり、公民館活動を通して実際に活動する場・提供する場となるよう続けてきた。〇〇委員の「2割しか知らないじゃないか」「生涯学習という言葉が市民の中でどれだけ意識されているか」ということに対し、国からの生涯学習という言葉が入って来たときに、公民館活動を中心にしながら、市民の生涯学習に対して行政側がどうアプローチしていくのか、役所に言われなくても既に生涯学習をしている市民は多く、そのことをあえて生涯学習と言うべきなのか。市民センター等を使い、学習と言うジャンルをされている方は既に大勢いる。市民の多くは「生涯学習という言葉に対してあまり実感を持っていない」という実態の中で、この施設に生涯学習センターという名称をつけた。生涯学習センターの役割は、「生まれてから死ぬまで学習は続き、その形態・成長に合わせてどう学習を組み立てていくか」「行政としてどのような関わりを持てるか」そう言う意味では公民館活動は今まで通り進める。何かやりたい

と思う市民が学習情報を得ようとするときに、民間では既に沢山宣伝している。市の場合、子どもの成長のこと、健康のこと、防災のことなどを含めて全てが学習情報とすれば、それらをできる限り提供することが生涯学習センターの役割と思う。また、広報で色々な事業をお知らせしていることもあり、それとのバランスをみると、それを見た方が早いという認識もある。生涯学習センターの情報提供をどの程度どのようにやればいいのかという問題提起は、〇〇委員から受けたことも含めてずっと課題となっている。その中で「NAVI」については、必要だという意見もあり、すぐに「止めます」「止めません」というわけにはいかない。情報提供のあり方について問題提起があったということが、報告書の一番のポイントだと思う。書き様については、事務局がこれまでの意見がある程度まとめるという形で作らせていただいたものであり、中間確認は一つのやり方と思う。できれば、それぞれの委員の方に2年間の思いを意見として出していただき、会長・副会長に最終的な整理をしていただければと思う。

副会長：最後に課題を提起するような形で終わるような「まとめ」にしていくことを念頭に置き、例えば、「おわりに」のところに「今期話し合った結果そういったことを考えていく、または深めていく課題が析出された」みたいなことをまとめて書ける。そこが結論となるような「中間まとめ」を念頭において、各パーツの中身を考えていくという形をどうかと思う。いかがですか。

委員：賛成だが、次回1月23日に終わらせるには、その時まとめて意見がきてもまとまらない。今日議論し今年中に素案を出し、それを基に皆さんとメールでやり取りし、それを再度フィードバックしたたたき台を次回会議の1週間前までに出してほしい。

事務局：作り方として、事務局はこれまでの意見からまとめているので、「そもそもこの形態ではない、素案をもう一度考えなさい」となると、ある程度固まってここまでまとめた形態なので無理だと思う。委員の中で素案を作り上げていくというのであればやぶさかではないが、そのための時間的などころではあと2か月ないので、〇〇委員のイメージと副会長の試みの中で整合を図るのも難しいと思う。

事務局：「おわりに」のところが上から目線だという意見をいただいた。前回の骨子案を検討したとき、声も上げられない人に対して「何かこちら側が受け止める姿勢を出していかなければならない」というこの場での議論を作文させていただいたので、思い付きで書いているわけではない。ここで、5分でも10分でも議論していただければ、そのように書く。

委員：それは理解していたつもりで、憤慨されるのは申し訳ないと思う。そうではなくて、8割知られていないので、そこを何とかしなければいけない。そこから始まってここに落とし込むのであればわかるが、それがなしでいきなりここに来るのは上から目線に聞こえてしまう。ここで、自分たちはどう考えているのか言って、関心を引くためにこういうこともやらなければいけないというのだったら整合性が

取れる。それがいいから、「こういうことやってきました」「いいことやってきました」「まちチャレ良かったです」「これからはもっとこういうことをやらなければいけない」なんてことを言われたので、そういう印象を持ったということです。なので、私は前半にそういうことを書くべきと思う。何のための市民意識調査かということです。今から思い出すと最初の会議で質問した「意識調査アンケートをどう分析されるのですか」に対して「仕事で反映させていく」ということだけしかなく、結局ここへ元に戻っている。調査は4年に1回やっていて、前の結果と今回の結果と変わっていない。これを踏まえて議論していかないと、事務局が言われたような悶々としたところの、こちら側としても客観的に言っていないと、「良いことやっているよ」とばら色に見えてしまう。具体的な提言も見当たらないので。

委員：今日の話は全体的なイメージという話から始まり、〇〇委員が「違うよ」という話をされ進んできたが、この全体的なイメージで11月に骨子案が出たところでは皆さん納得されて会議が終わったと認識している。細かいところはこのようにした方が良いとか多々あるが、この骨子案に基づいてやっていくのだと認識していた。終わり方については、中間報告で良いと思う。イメージが違うということであれば、もう少し「私ならこういう風を書く」というように具体的に言っていただければ、それについて皆さん意見が出せる。どうしても言葉の中だけではイメージが湧かない。全体はこの骨子案で行くと始めていかないと時間がどうかと思う。

副会長：それにかからめながら私からの提案ですが、事務局サイドが事務局に提言を書くのは難しいと思う。まとめていただいたこれを生かしながら作っていくわけですが、私がたたき台をつくりたい。たたき台を作るのに皆さんに協力いただきたい。一つは「まとめ」に今後の課題を結論として書くのなら何を結論として並べるのか、何を協議会の課題提起としてまとめるのかを皆さんから意見をいただきたい。その結論が見えるように中身を構成していきたい。もう一つは、各パーツの中にどういった意見や事実関係を入れていくのか、もう少し付け足したいなど意見があると思う。検討していく中での意見を見つつ、最後の結論を何にするのか、意見を参考にしたい。

意見は今まで議論で出したもので、新しいことは含めない。そのたたき台を基に1月の協議会で意見をいただき、中身を作り上げる。そのような進め方でいかがですか。

<全員賛成>

次に、各パーツの内容について意見をいただきたい。

委員：「まちチャレ」はやってきたことなので、件数等細かいところは今年度の「まちチャレ」の実績というようにして章の後に持って行ったほうがすっきりする。

委員：「2市民ニーズについて（2）市民ニーズへの対応はについて」は、もう少し膨らませて細かい内容入れないと、重点テーマとしては内容が薄いように思う。また、下の①に対しては、②にたいしてはではなく箇条書きにしたほうが良い。

副会長：〇〇委員からも意見が出されているので。

事務局：私も、これだけでは分からないと思った。「育児、家事、美容など様々な志向のニーズ」と言われても良く分からなかったので、こういったことが求められているのではないかとまとまりもなくつらつらと書いた。ニーズという言葉に落とせなかった。自分が今までの会議で何を発言したか全部は覚えていないが、こう言ったつもりで発言していた。

委員：お二人の意見に賛成だが、ニーズはこれだっていう言い方になっているから。ここでの議論は「こういうのもありますね」って言っていただけ。これも私は違和感を感じた。これをやるべきだという気持ちはない。もっと広く吸い上げた方がいい。また、「シニア世代」に変えたのは良いが、「定年退職された方」というのも変えた方が良い。今そういう時代ではない。

副会長：これは地域デビューという言葉が出ているので、仕事を辞めた後の時間をどう過ごすかということですね。

委員：経験知を活かして活躍してもらおうという意味でしょ。「色々経験持った人が色々なところで」という温かい言葉にしてほしい。「定年退職」「リタイア」は嫌ですね。お前考えろというなら考えます。

副会長：ぜひ。

表のところで、入れたい意見や変えたいところはありますか。この案には例示と書いていただいているので、これがニーズなんだと決めているわけではない。こういったものがこの協議会では出されましたという例だと思う。

〇〇委員の意見は、「この表の市民ニーズの把握が一番大事なのでここをもう少し突っ込んで議論して書いてみてはどうか」ここをふくらましてはどうかということですね。

委員：「⑤外国人とコミュニケーション」ですが、これはこちら側の話ですか、外国人がという話ですか、主語はどちらですか。

事務局：私は外国人の方と捉えていた。親が日本語話せなかった場合のアプローチなど。

委員：これは、右と左を逆転した方が良い。

副会長：論点整理を見ると、外国人とのコミュニケーションの取り方、スマホ翻訳、多様性の学習という形でまとめられている。

委員：表ですが、例えば①学習…、真ん中にニーズがあり、対応が下の方の例示で書かれている。普通だと同じ行に書くので随分見づらい。例示を表の中に入れておくと見やすい。

副会長：表の作り方を3列にするなど工夫してみます。

委員：「外国人とのコミュニケーションは市の他の部門」は国際交流センターだと思うので具体的に書いた方が良いでしょう。

副会長：防犯、防災、孤立化も市の他の部門にかかっていると思う。

委員：防犯、防災、孤立化は高齢者支援など色々なところがあるので、いくつか出すといいのではないかと。国際交流センターはここしかないのでは、等しいと思う。

委員：関連して、いつも分からないのは、国際交流センターがやる事業に対して、生涯学習センターは何をするのか、どういう風に連携して何をやっているのか。

事務局：1年に1回共催事業をしている。交流会や各国のダンスを披露した。2部では「日本に住んで子育てでこういうところが苦労した、助かりました」など発表をした。

委員：具体的に書いてもらったほうが分かる気がする。そうすれば、こちら側から「どうしたらいいのではないかと」か言えるのではないかと。連携は連携でいいのだけどいつもこの辺はそう思う。役所の全体組織表を皆さんに配ってもらったが、「どことどうやって、何をやって、こうすべきだ」という。そこが大事なのだが、ぼやけていて、「やっています」「やっています」になっている。そこを工夫してもう一行落としてほしい。

副会長：私も情報がほしい。例えば防犯、防災、孤立化なども、どこと連携しているのか。全部でなくて良いので代表的なところを教えてください。そして、「具体的に共催事業で何かに取り組んでいるのか」「情報提供面で連携しているのか」「今何をやっていて何をやれていないのか」といことですね。事務局で今出せる情報ありますか。

事務局：整理します。

委員：地域は市役所だけではなく、警察とか連携している。そこに生涯学習センターが参加してくれれば話はすむと思う。生涯学習センターが中心となって皆をまとめ核になるのだと辛いと思う。例えば、自分のところは「防災計画について学びましょう」というのをやっている。町内会、民生委員、一時避難所の校長先生、消防団、2次避難所の方が来て、防災マップを見ながら学んだ。学びと言うのがテーマだったのできちんとお誘いすべきだった。そこに来てもらうだけでいい。「特殊詐欺被害が多い、お爺ちゃんお婆ちゃんを守りましょう」ということで、中学生が手紙を作って配る。そこに警察に来てもらい特殊詐欺の現状について学んだ。そこに顔を出してくれたら。すでにつながり始めている地域の中に学びというテーマがあれば、生涯学習センターもアウトリーチしながら参加すると広がっていく気がする。



委員：この協議会は2018、2019年度の2年間なので3ページの表は2年間分出してほしい。生涯学習センターの名称を何度も繰り返しているのが最初に「以下センター」というように定義づけして。

副会長：「まちチャレ」を大きく取り上げて議論したのは今年度だけだと思うので議論の内容は今年度だけ、情報は2年分載せるということ。

事務局：○<sup>まる</sup>ごと大作戦の関係で2018年度は件数が少ない。2019年度はまだ続いているが、落ち着いてきたので件数が増えている。

副会長：そういった事実も書いた方がよい。

それでは、「おわりに」の結論にどのような課題を盛り込みたいか意見を聞きたい。

委員：「NAVI」はもちろん意識調査アンケートの8割の人が知らないという、それを入り口に認識すべきなので入れてほしい。

副会長：前回、〇〇委員が発言した「センターとして姿勢を見せていく」という部分に入ってくる。センター長への報告書だと考えると、もっとセンターとしての姿勢を顕著に見せてほしいというお願いというか、提言としてまとめる形になる。

委員：〇〇委員の意見が良いと思う。

副会長：吸い上げる、救い上げる、くみ取る

委員：ニーズを自動的に吸い上げる仕組みがないので、8割も関心が無い。許容できる人数を把握する方が先。今、把握されてないので。

副会長：どういう言葉を使うか難しい。市民の側からすれば自分たちのニーズを実現するという事かもしれない。センターからすると「汲み取る」や「要求把握」「ニーズの把握」ということを学生に伝えたりする。

委員：ここであげられている意見で許容できるのは「ニーズを把握する」ぐらいと考える。意見です。

委員：「まちチャレ」は今年度5件の実施だったが、それをもう少し増やせる方向にできないか。できるだけ機会を与えてほしい。

副会長：具体的提案だが、そこまで書いて良いですか。

委員：なぜかが重要。「ここで単に予算を増やすのではなく、ニーズを吸い上げるために、それを核としてやるべきだ」みたいな前段がないといけない。

委員：ここに座ってずっと訴えてきたことは、「センターは1館しかないのだから地域を意識した学びの場ということ。」ということ。例えば、色んな地区協議会に出張してやってみようと思ってくれているにも関わらず、「あんなに提案しているのに受け

止めてくれない」というのが現状だと思う。しかし、町田はオール町田の市民ニーズってなかなか見えてこない。10か所と言っても見えてこないところがある。なので、地域の学びのニーズをアウトリーチしていくという姿勢を我々も行政側も持って行くということを確認したい。例えば、母子家庭の家へ弁当届ける事業で「お母さん忙しいからお弁当届く日は一緒に食べて話をしてほしい」とか、「ひとりぼっちじゃないよ」というメッセージを伝えている。今度、図書館と組んで絵本のリストから絵本を持って行き、ママが小さいころ読んでいた絵本をリクエストしてもらおう。そのとき、生涯学習センターと一緒に何ができるかというところまで行きつかないのは、連携が取れにくいから。そのお母さんたちと生涯学習センターで学ぼうというところまで地域が生涯学習センターを意識できていない。図書館は組めばいいとすぐ思い浮かぶけど。我々も含めて活動していかなければいけない。色んな所で色んなことが始まっている中で「生涯学習センターにも相談してみよう」とか。子ども家庭支援センターの手紙に、「家庭教育を充実させる」というのが目標に書かれていたので、それをイメージしてママの読んだ本とか図書館を意識してもらおう。そこの親子に生涯学習センターを意識してもらおう取組ができたいいなと思っていたので、この市民ニーズについても議論が足りていないので、市民ニーズをどうアウトリーチしていこうか。こんな偉そうなこと言っても地区協議会は10%も知らないという答えのような気がする。生涯学習センターで活動している人も意識するように。最終的な市民はここではなく、繋がりを持っていこうとしている人たちなら声なき声が聞こえてくるのではないか。

副会長：結論の部分を書くとしたら、市民アンケートの件もあるが、このセンター自体が知られていない中で、何か地域で活動していても連携先・相談先がこのセンターの姿が選択肢として出てこない。そこをどう打ち破るかとなった時に一つの提案として、アウトリーチを進めてセンターが地域の中に学びと言う部分を軸にしながら出ていき、地域の人たちと「繋がっていく」「連携していく」先ほどの民間同士で連携している中に参加していくというのも一つの形だと思う。そういった姿勢をもう少しきちんと打ち出す。あるいは取り組みを進めるべきだということを「まとめ」の中で提言する。提案していく。または、「そこの部分の議論をもっと深めるべきだ」という提案をしていくという形になる。

委員：そうですね。

委員：その通りですが、「社会への啓発が大事」というのがあると思う。そうでないと共鳴を得られない。本当に困っている人にアウトリーチできない。「社会への啓発が大事」というのがあるならば「8割の市民の声が聞こえる」というのに繋がる。社会全体の啓発が大事で生涯学習センターはそれをどうしていこうかということだと思う。

副会長：色々な課題があって、困っている方たちがいる、それを解決していかなければいけない。その困っている当事者が学ぶというのは当然あり、それを支援する。または周りの人たちに知ってもらいサポートできる体制を地域の中に作っていくこ

とも考えつつ、それを進めていくことが「社会への啓発」であるように思う。「社会への啓発」をやろうとしたときに、例えば、町田はこのセンター1館しか公民館はなく、基本的にはここで何かをやっているのに参加してもらう形をとっている。しかし、センター自体があまり知られていない。あるいは、ここでやっても高齢でなかなか来られない人がいたりする。それを学びの場や機会を、一つは「まちチャレ」と言う形で地域に出していき市民主導でやってもらう。今回最後の結論の中に出てくるものの一つと思う。また、今〇〇委員の発言を私なりに解釈したのが、センターの事業自体が外に出ていく、地域の中にアウトリーチで地域と結びつきながらそこで、広く言えば「社会への啓発」ということになるが、手段として事業を外に出していく。センターを増やしていく、公民館を増やしていくというのが一番いいのかもしれないが、それは現実の中ですぐには叶わないので、手段としてそれがありうるのではないかと私は受け止めた。

委員：最後の「おわりに」というところの大きな趣旨をこのまま生かすとしたときに「市民のニーズを拾い上げきれていない」とか「生活に追われ、本当に困っている人は声をあげることができない」とか「自らのニーズを認識できていない段階にある市民に対しての気づき」ということで言うと、エリアを少し分けた方がいい。いろんな活動はすでに始まっているので、そこに生涯学習センターも行って「声を聞いてみる」「雰囲気味わってみる」。自身のニーズを意識出来ていない人に対してどうゆうふうにしていこうかなということになると思う。「求められています」の先に「じゃあどうしようか」というところを書き加えてあげれば。

委員：「まちチャレ」の数を増やしてほしいという話があったが、予算ありきではなく、やり方、工夫がもう少し必要。限られた予算なので、いかに増やすか、方法論をしっかりと考えていければ。「予算がこれだけだからこれ以上は」という考え方は脱却していただいて。今までの調査の中で生涯学習センターを80%が知らない、20%しか知らないというデータの取り方があるが、どういうアンケートを取ったら活動に生かされるか。提案はできないが、最後に書くということではないかもしれないが、そういう気持ちがある。

委員：私たちがやっているNPOが究極の生涯学習や社会教育だと思う。こういうところで学んでいる方や地域で活動しているお母さんたちが集まり、課題が見つかったから集まり、その手段として、障がいのある方は障がい者のことを、私たちは子どもを中心とした街づくりや遊びの伝承をしている。そうやって活動したことが形になってそこから波及している部分が多い。そういったリーダー的なものも一緒に育てていき、波及していくことが皆に効果ある。地域は多様なのでその一つひとつのニーズは分からない。〇〇委員が言っていた「小さい範囲で接している中で拾い上げること、分かること」も多い。座学や学びが一番大事だが、そういう触れ合う場、センターができることもそうだし、職員が来なくなるようなそういう活動や市民が行きたくなるような講座があると良い。リーダーとして、〇〇委員みたいな方

はなかなか出てこないと思うが、小さくてもそういう人がセンターの学びから学習を通して出てくれば。

副会長：ほかにも意見があれば私に、それでたたき台をつくれます。

委員のコメントは400字以内で、最初によくある挨拶はなしで中身だけを書く。1月の議論を踏まえてコメントを書いていただく。

それでは、これもちまして終了します。おつかれさまでした。

#### 次回の日程

日時 2020年1月23日（木）18：00～20：00

会場 生涯学習センター 学習室1・2